

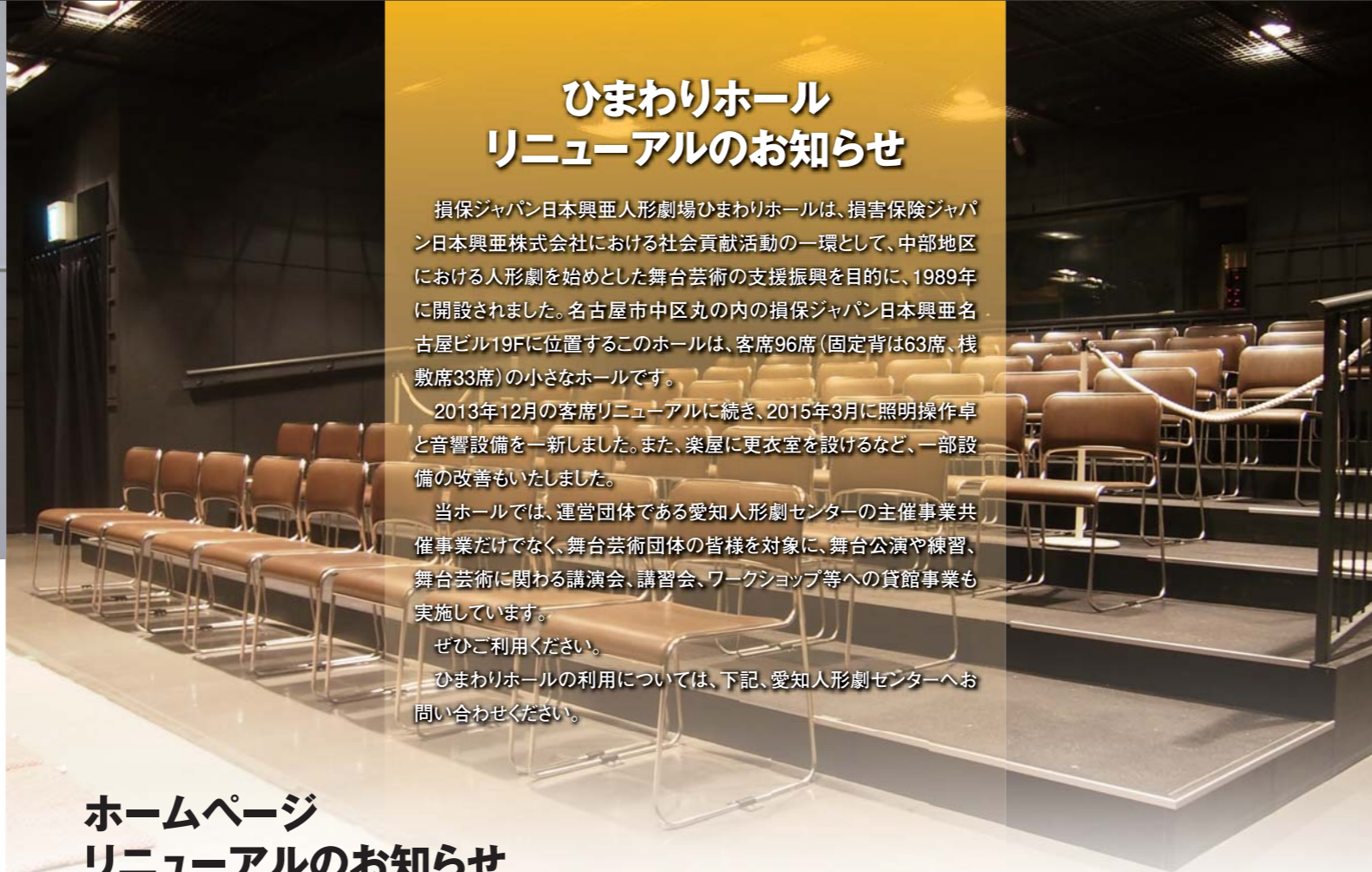
あぶ

Aichi
Puppetry
Center

ひまわりホールから
発信する
シアター情報誌

劇場も誌面もリニューアル!

甚目寺脱教源氏節もくもく座(愛知県あま市)「久寿の葉子別れの段」



ひまわりホール リニューアルのお知らせ

損保ジャパン日本興亜人形劇場ひまわりホールは、損害保険ジャパン日本興亜株式会社における社会貢献活動の一環として、中部地区における人形劇を始めとした舞台芸術の支援振興を目的に、1989年に開設されました。名古屋市中区丸の内3-22-21の損保ジャパン日本興亜名古屋ビル19Fに位置するこのホールは、客席96席(固定背は63席、浅敷席33席)の小さなホールです。

2013年12月の客席リニューアルに続き、2015年3月に照明操作卓と音響設備を一新しました。また、楽屋に更衣室を設けるなど、一部設備の改善もいたしました。

当ホールでは、運営団体である愛知人形劇センターの主催事業共催事業だけでなく、舞台芸術団体の皆様を対象に、舞台公演や練習、舞台芸術に関わる講演会、講習会、ワークショップ等への貸館事業も実施しています。

ぜひご利用ください。
ひまわりホールの利用については、下記、愛知人形劇センターへお問い合わせください。

ホームページ リニューアルのお知らせ



この度、愛知人形劇センターのホームページをリニューアルしました。今回のリニューアルでは、より見やすく、より使い易いウェブサイトを目指し、デザイン刷新、SNSとの連携強化を行っています。今後もセンター会員の皆様をはじめ、人形劇に興味をお持ちの皆様に、有益な情報を発信していきます。

<http://aichi-puppet.net/>

愛知人形劇センター



地下鉄鶴舞線または桜通線
「丸の内」駅下車
4番出口から東へ300m

地下鉄名城線または桜通線
「久屋大通」駅下車
西改札1番出口から西へ200m

会員募集のご案内

愛知人形劇センターは、損保ジャパン日本興亜人形劇場ひまわりホールの運営を基に、人形劇文化の発展、啓蒙、普及を目的に活動を行っているNPO法人です。

愛知人形劇センターでは、主旨にご賛同頂き、活動を支援して頂ける会員を募集しています。

- | | |
|-------------------------------|------------------------|
| ●正会員個人
入会金500円 年会費2,000円 | ●賛助会員個人
年会費1口3,000円 |
| ●正会員団体
入会金1,000円 年会費5,000円 | ●賛助会員団体
年会費1口5,000円 |

※詳しくは、愛知人形劇センターまでご連絡ください。

特定非営利活動法人

愛知人形劇センター

〒460-8551 名古屋市中区丸の内3-22-21
損保ジャパン日本興亜名古屋ビル8F
TEL.080-1137-9733 FAX.052-953-3680
<http://aichi-puppet.net/apc/>
MAIL:mail@aichi-puppet.net

愛知人形劇センター 通巻292 2015年春号
ひまわりホール情報誌
発行：特定非営利活動法人 愛知人形劇センター
発行人：木村繁
編集人：杉原高行
デザイン：江利山浩二(KINGS ROAD)
編集：小島祐未子(家徳の編集舎)

©愛知人形劇センター ※本誌記事・写真・レイアウトの転載を禁じます。

対談 “人形と自動車”



布垣直昭

(トヨタ博物館館長)

Naoaki Nunogaki

デザインや企画を中心に約30年、車開発に従事。
初代ハリアーなど様々な新規車を世に送り出した。
デザイン統括部長などを経て昨年よりトヨタ博物館館長に就任。
日本の車文化を醸成していく事に情熱をそそぐ。

木村繁

(NPO法人愛知人形劇センター理事長)

Shigeru Kimura

人形劇・現代演劇の演出家として近年「父と暮せば」
『胎児の夢〜ドグラ・マグラ』『ジュリアス・シーザー』など話題作を演出。
文楽や糸操り、説教源氏節など伝統芸能の仕事も多い。
NPO法人愛知人形劇センター理事長、(一社)日本演出者協会理事。

損保ジャパン日本興亜人形劇場ひまわりホールを管理・運営する愛知人形劇センターのNPO法人化にあたり、木村繁理事長がトヨタ博物館館長の布垣直昭氏と対談。一見ずいぶん印象の異なる人形と車のモノとしての性質、その共通性について語り合いました。

木村 トヨタ博物館のポスターに25周年を機に、「モノ語る博物館へ」と書いてあり驚きました。

布垣 はい、博物館はいいものを展示するだけではだめです。モノに語らせることがこれからは大切です。

木村 と、いうと?

布垣 例えば車は動くことによってしか伝わらない事があります。生きた展示で何かを伝えることです。

木村 伝える…なにを? お聞きしたいですね。

布垣 当館の展示車は全て走行可能な状態を維持しており、時々走行披露もしています。100年以上前のモーリス・オックスフォード、これなんか変速レバーやペダルの配置も今の車とは違います。電子制御も安全装置もない、最低限の部品しかない車です。初めて乗るとなかなか馴染めないけれど、エンジンをかけると100年前の音がする、懐かしいオイルの匂いがする、振動による車体の揺れ、変速するときのショック感…100年前に運転していた人の感覚を追体験できるんです。結局、車を操作しながら、それに乗っていた人や造った人を想うんです。いわば車という「モノ」を通じて関わった人達の物語りが伝わるのです。

木村 クラシックカー・フェスティバルの根強い人気の秘密がそこにありますね。おっしゃるモノ語りの現象は人形にも云えます。古い人形も、蔵に眠っているとただの骨董ですが、操作すると作った人の技巧や想が見えてきて、人形師と人形遣いが交信出来ます。作った人形師の感覚が見えてきます。なるほど、モノ語りですか…。

布垣 「顔」学会というところで、車と顔について講演したことがあるんです。車は本来なら人や荷物を運ぶ機能さえ果たせばいいでしょう? なのに人間はイメージや装飾を求めます。

木村 布垣さんは車のデザイナーでいらっしゃった?

布垣 はい。可愛い車、いかつい車…いろいろ顔を考えるわけです。ところが表情をつけすぎるとダメ、可愛い車もあまり生々しいとダメなんです。どこか抽象性というのが必要なんです。

木村 人形劇の人形も、あまり目鼻がくっきりしてるのは、動かしても生きてこない。目鼻がぼんやりして口をポーッと開けているような顔が、動かす力を持って生命を感じさせてくれるんです…それが抽象性ですか。

布垣 そうです。車は実用だけでは発展しなかったと思うんです。車の性格やファッション性…車にそういう感覚がなければここまで発展しなかったと思います。

木村 私ども愛知人形劇センターと損保ジャパン日本興亜人形劇場ひまわりホールは25周年を迎えます。

布垣 トヨタ博物館も同じ1989年のオープンです。

木村 企業メセナ活動は、続けることが大変なことですね。損保ジャパン日本興亜は長い目で文化という生き物を見てくれる根強い企業だと思います。

布垣 弊社も青少年の音楽活動に援助を続け、メセナアワードを受賞しました。

木村 おめでとございます。ひまわりホールも前身のメセナ大賞もらっています。

布垣 メセナ活動は一見本来の社業に直接かわりない余力のように見られる方もおられますが、継続される活動を通じて本当の企業の姿勢が見えてくると思うんです。いわば企業の人格のようなものが現れるのだと思います。

木村 興味深いお話、ありがとうございました。